

松塩地区広域施設組合 新ごみ処理施設整備に係る 環境影響評価方法書について

令和5年1月

松塩地区広域施設組合

目次

1. 事業計画の概要
2. 環境影響評価項目の選定
3. 調査、予測及び評価の手法
4. 評価の方法
5. 手続状況

1. 事業計画の概要

方法書 p1-1~1-22

1. 事業計画の概要

方法書 p1-1

事業の名称 : 松塩地区広域施設組合 新ごみ処理施設整備

事業者の名称 : 松塩地区広域施設組合

事業の種類 : 廃棄物処理施設の建設
【第1種事業】

1.4.1 現有施設の概況

方法書 p1-1~1-3

松塩地区広域施設組合
(松本市、塩尻市、山形村、朝日村)
一般廃棄物の広域処理を実施



松本クリーンセンター



可燃ごみ処理施設



リサイクルプラザ



容器包装プラスチック
リサイクル施設

隣接
松本市リサイクルセンター
(松本市)

1.4.1 現有施設の概要

方法書 p1-3~1-4

現施設の概要

松本市リサイクルセンターの概要

処理施設	可燃ごみ処理施設 (焼却施設)	リサイクルプラザ (破碎処理施設)	容器包装プラスチック リサイクル施設 (圧縮梱包施設)
所在地	松本市大字島内7576番地1		
敷地面積	約49,700m ²		
処理の内容	可燃ごみの焼却	鉄、アルミ、可燃物、 不燃物の処理	容器包装プラスチック の圧縮梱包
処理能力等	450t/日 (150t/24時間×3炉) 発電(6,000kWh) 場内利用及び売電 余熱をラーラ松本(温水 プールほか)へ供給	35t/日 (5時間稼働) 破碎処理後、鉄、ア ルミ、可燃物、不燃 物に分別	11t/日 (5時間稼働) 手選別 容器包装プラスチック の圧縮梱包

施設名	松本市リサイクルセンター (ストックヤード・中間処理施設)
所在地	松本市大字島内9833-2
敷地面積	約11,000m ²
処理内容	ペットボトルの圧縮 資源物の受入、一時保管 ストックヤード 面積1,370m ² 、23分類
処理能力等	ペットボトル圧縮梱包 400kg/時間

1.4.2 事業の目的、必要性

方法書 p1-3~1-4

事業の目的

- ◆現焼却施設は供用開始から23年が経過している。
- ◆平成26~29年度に基幹改良事業を実施し、長寿命化を行っている。
- ◆地元との協定により、現焼却施設の稼働期間を30年としており、令和10年度末には供用を満了する予定となっている。

以上を踏まえ、本組合では現焼却施設に替わる新しいごみ焼却施設の整備事業を実施することとした。

1.4.2 事業の目的、必要性

方法書 p1-3

事業の目的（つづき）

- ◆焼却施設と同時に、リサイクルプラザ（破碎処理施設）を一体整備する予定
- ◆建設地によってはプラスチックリサイクル施設も一体整備することを想定
- ◆新ごみ処理施設の整備は、開かれたごみ処理施設とし、「新ごみ処理施設・ラーラ松本・周辺自然との回遊」を柱とした「平瀬環境エリア」の創出を目指す。
- ◆豊かな自然を感じてもらえる場所、「学び・遊び・癒し」の幅広い体験ができる場所とし、エリアそのものの価値を高め、人の交流や賑わいの創出につなげる。
- ◆ごみ処理施設で発生した熱や電力を地域へ供給し、地域の活性化につなげる。

1.5.1 建設候補地選定の経過

方法書 p1-4~1-5

構成市村全域から建設に適さない地域を検討

- 法令上の規制により、建設できない場所、困難な場所
 - ・都市計画法の用途地域
 - ・森林地域、農業地域、自然公園地域、自然保全地域など
 - ・土砂災害警戒区域、砂防指定地など
 - ・人口重心から10km圏外

建設に適さない地域を客観的に検証（適地一次選定）

- 法令上の規制等により、建設できない場所、困難な場所を検証
 - ・生活環境の保全：住宅・商業地を避けるなど、生活環境に配慮
 - ・自然環境の保全：優れた自然の風景地や動植物等、自然環境に配慮
 - ・防災面への配慮：災害の危険がある地域を避ける等、防災面に配慮
 - ・経費の削減：運搬コスト等が上昇する可能性のある地域を除外

建設に適した場所を抽出して絞り込み（適地二次選定）

- 適地一次選定の中で建設に適した場所を抽出し、比較検討、評価
 - ・建設に適した候補エリアを抽出
 - ・10カ所程度に候補地に絞り込み
 - ・候補地を比較評価

現施設の周辺区域を最も高く評価

→ 現施設の周辺区域を建設候補地とした



1.5.2 建設候補地の絞り込み

方法書 p1-6~1-7

選定された適地の範囲（現施設の周辺区域）の中から、「新ごみ処理施設基本計画」で必要な面積や敷地の形状を勘案し、具体的な建設候補地案を絞り込みを行った。

現段階では、対象事業実施区域となる建設候補地案は、A案及びB案の2案となる。

処理施設	A案	B案
敷地面積	約16,000㎡又は 約27,000㎡ (松本市リサイクルセンターの敷地を含める場合)	約14,000㎡
現在の土地利用	(株)長野県食肉公社敷地 約16,000㎡ 松本市リサイクルセンター敷地 約11,000㎡	平瀬運動公園野球場 約14,000㎡

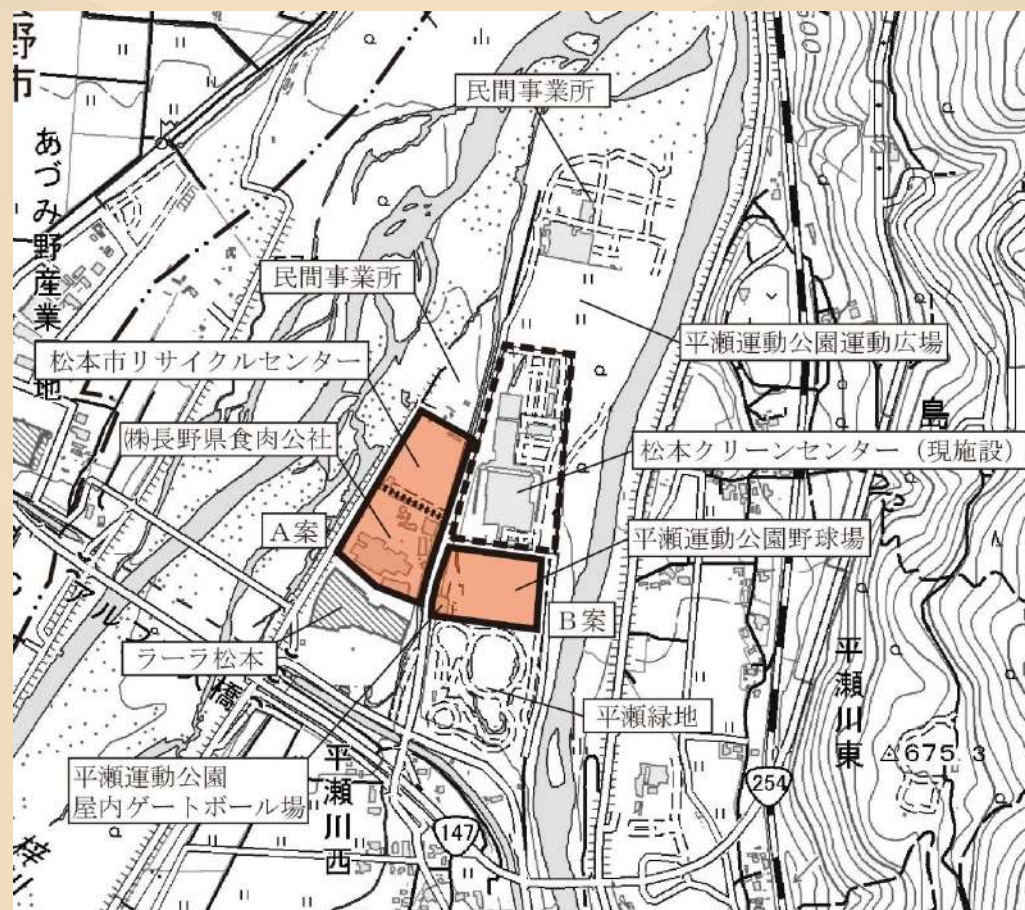
1.5.2 建設候補地の絞り込み

方法書 p1-6~1-7

A案

(株)長野県食肉公社の敷地

- ・移転が対象事業の建設時期までに完了することを前提としている。
- ・松本市リサイクルセンターの機能も一体整備する場合は、敷地に加える。



B案

平瀬運動公園野球場の範囲

- ・敷地が狭いため、容器包装プラスチックリサイクル施設は事業に含めず、別事業として現施設を解体した跡地に整備
- ・松本市リサイクルセンターの機能の一体整備は行わない。

1.6 対象事業の規模（処理能力）の設定

方法書 p1-8~1-9

- ・各市村の人口推移を加味し、製品プラスチックのリサイクルによる焼却量の減を見込んで将来の焼却処理量を設定
- ・最も処理量が多い糸魚川－静岡構造線断層帯の地震による要焼却処理量の想定を加味して規模を設定

組合構成市村の焼却処理量の予測値

+ 災害廃棄物量の想定 = ごみ焼却施設の規模（処理能力）

≒ 360t/日

現焼却施設 450t/日 から 90t/日 の規模縮小

1.7.1 施設整備の基本方針

方法書 p1-10

「新たな価値を創出する新時代のごみ処理施設を目指して」

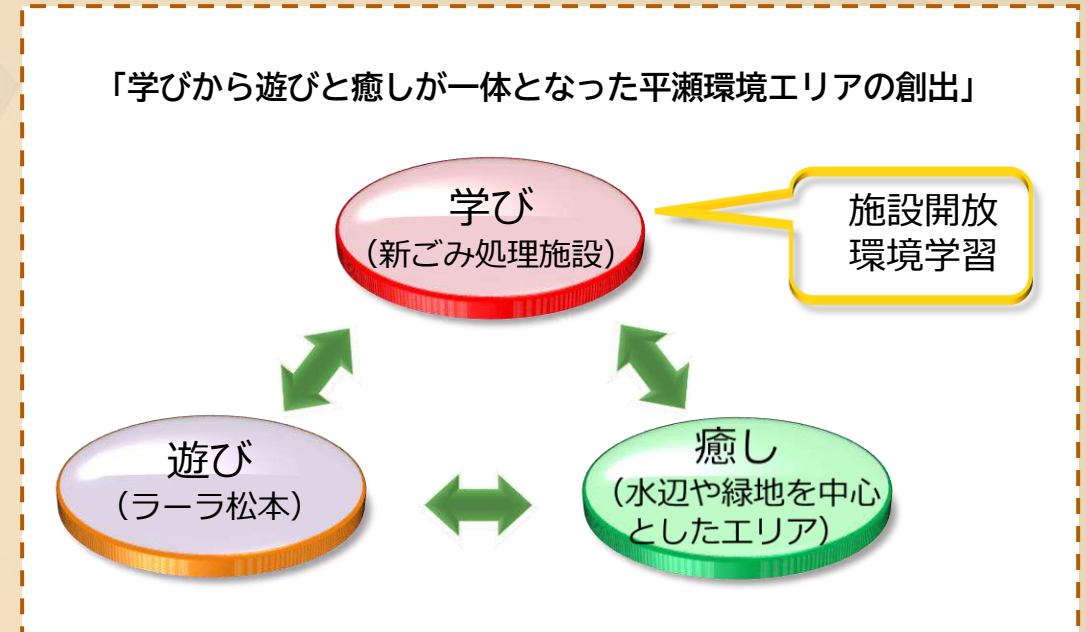
- 基本方針1 安心・安全な施設
- 基本方針2 環境に配慮した施設
- 基本方針3 地域に価値を創出する施設

1.7.1 施設整備の基本方針

方法書 p1-11

【平瀬環境エリアの創出】

- ・誰もが自由に見学ができる施設にすることで、ごみ処理施設をもっと身近に感じてもらえる「開かれた施設」を目指す。
- ・ラーラ松本や平瀬周辺の自然と融合を図り、学び・遊び・癒しが一体となり、回遊することができるこのエリアを「平瀬環境エリア」と位置付け、新たな価値を創出する新時代のごみ処理施設を目指す。



1.7.2 対象事業実施区域の位置及び予備調査の範囲

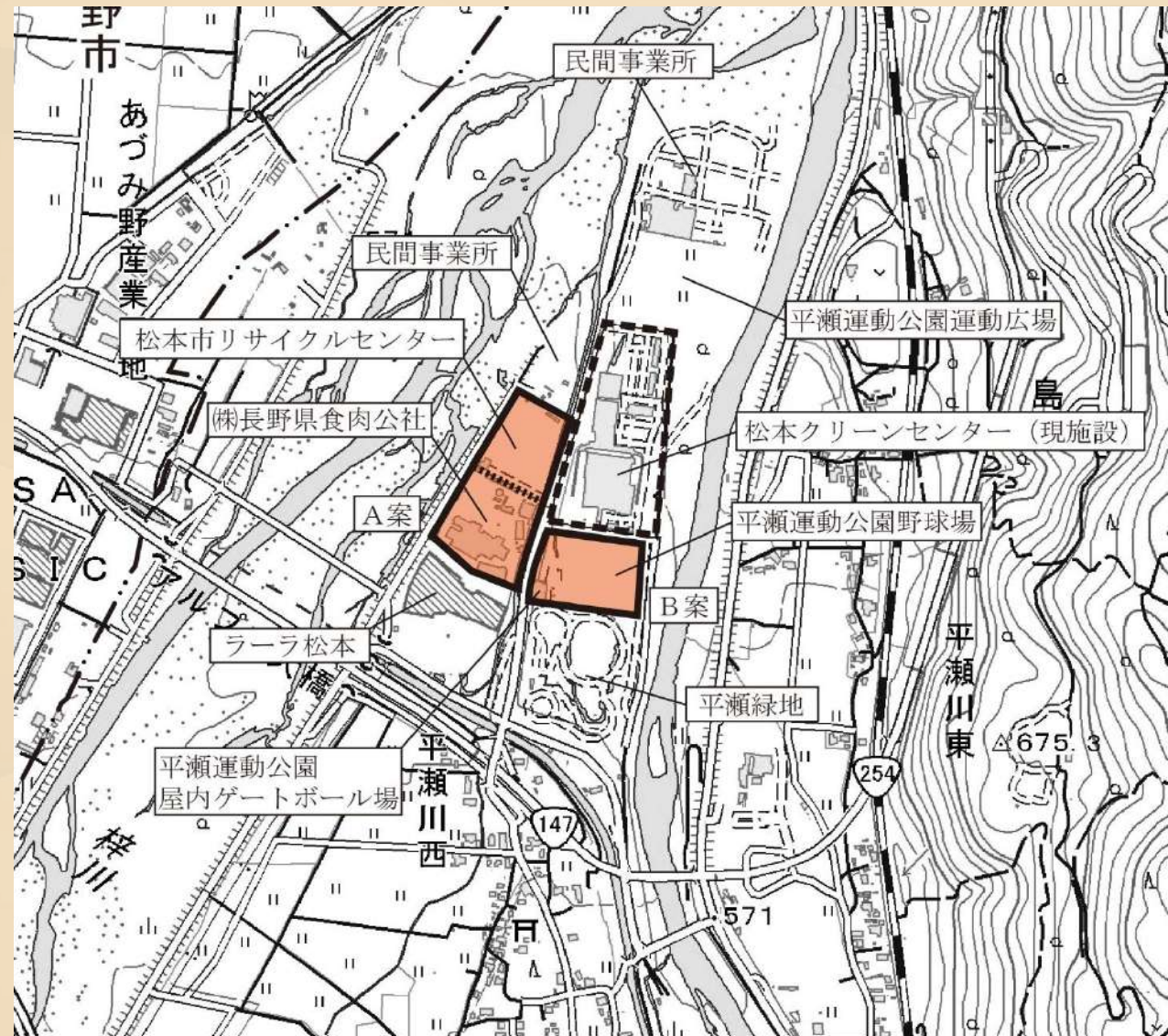
方法書 p1-11~1-12



半径4kmの範囲を予備調査の調査範囲とした。

1.7.2 対象事業実施区域の位置及び予備調査の範囲

方法書 p1-13



1.7.3 処理施設の種類の種類、規模及び処理方式

方法書 p1-14

施設の種類の種類	処理内容	処理方式	施設の規模 (処理能力)	整備する施設	
				A案	B案
ごみ焼却施設 (現焼却施設の更新)	可燃ごみ	ストーカ式焼却方式 (灰溶融設備なし)	360 t/日 (120 t/24 h ×3 炉)	○	○
破碎ごみ処理施設 (現破碎ごみ処理施設の更新)	粗大ごみ・破碎ごみ	4 種選別 (鉄類/アルミ/可燃残渣 /不燃残渣) 破碎機、選別機等	13 t/日 (13 t/5 h)	○	○
プラスチックリサイクル 施設 (現容器包装プラスチック リサイクル施設の更新)	容器包装プラスチック、 製品プラスチック	破袋 (破袋機) 選別 (手選別又は機械選別) 圧縮梱包 (圧縮梱包機)	13 t/日 (13 t/5 h)	○	-
リサイクル施設 (現松本市リサイクルセンター の機能を一体整備)	ペットボトル 蛍光管	圧縮梱包機 小型破碎設備	未定	△	-

○ : 本事業で一体整備するもの △ : 本事業で一体整備する可能性があるもの - : 本事業で整備しないもの

1.8 事業計画の概要

方法書 p1-19

【公害防止計画】

排ガスの公害防止基準値

項目	単位	新ごみ処理施設 公害防止基準	現施設 公害防止基準	法規制値
ばいじん	g /m ³ N	0.02	0.02	0.04
硫黄酸化物	ppm	50	50	K値 14.5※
窒素酸化物	ppm	100	100	250
塩化水素	ppm	50	50	430
水銀	μg /m ³ N	30	50※ ²	30
ダイオキシン類	ng-TEQ /m ³ N	0.1	0.1	0.1

※：K値14.5を現施設の排出濃度に換算すると、2000ppm程度となる。

※²：平成30年4月1日施工日以前に建設された施設の法規制値は50μg/m³Nである。

1.8 事業計画の概要

方法書 p1-19~1-20

【余熱利用計画】

- ・新ごみ処理施設でも現在と同様、ラーラ松本への熱供給を継続
- ・発電による場内への電力供給及び売電、温水の場内の熱供給も継続

【給水計画】

- ・現在と同様、生活用水には上水を、プラント用水及び洗車用水には地下水を使用する見通し

【排水処理計画】

- ・現在と同様、生活排水は直接下水道放流、プラント排水及び洗車排水は処理後下水道放流する見通し

【啓発施設計画】

- ・すべての来場者にごみ減量化と再資源化への意識の高揚を図るため、見学者スペース設置や常設展示を行う

1.8 事業計画の概要

方法書 p1-20

【造成計画・施工計画】

- ・ A案、B案のどちらの場合も、ごみピット部分は10m程度の掘削が必要となる可能性がある
- ・ 地下水への影響低減や洪水時の浸水対策を踏まえ、造成及び施工に係る計画を作成する

【防災計画】

- ・ 建築基準法等の各種基準に従い、高い耐震性を備える施設として整備する
- ・ 洪水時の浸水予想区域（0.5～3.0m未満）に含まれるため、浸水によるごみや灰の流出対策、機器類の浸水対策、建物自体の浸水対策を検討する

2. 環境影響評価項目の選定

方法書 p3-1～3-20

3.1 計画段階配慮事項の選定

方法書 p3-1~3-2

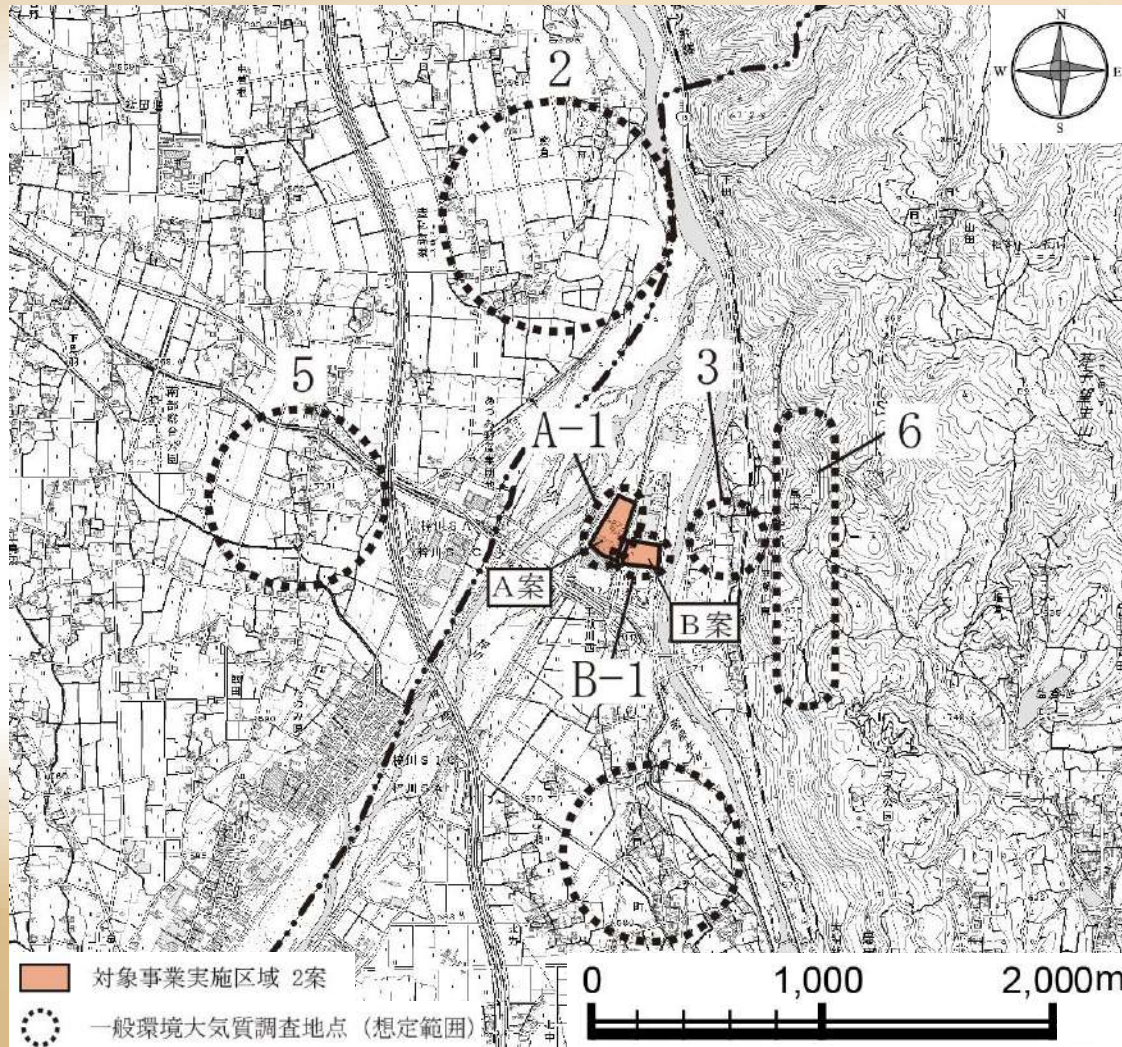
環境要素	大気質	騒音	振動	低周波音	悪臭	水質	水象	土壌汚染	地盤沈下	地形・地質	植物	動物	生態系	景観	ふれあい活動の場	文化財	廃棄物等	温室効果ガス等	日照障害	電波障害
影響要因																				
工事中	○	○	○			△	○	△	△	△	○	○	○		○		○			
供用時	◎	○	○	△	○		○	○	△		○	○	○	○	○		○	○	○	○

3. 調査、予測及び評価の手法

方法書 p3-21～3-75

3.3.1 大気質（一般環境大気質、気象調査）

方法書 p3-22～3-25



調査地点

配慮書で実施した煙突排ガスの拡散予測結果及び集落の分布状況を基に設定

調査内容

- ・ 4季、7日間、6地点
二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、ダイオキシン類、塩化水素、水銀
- ・ 4季、30日間、6地点
降下ばいじん
- ・ 4季、7日間、2地点（地点A-1またはB-1及び周辺1地点）
微小粒子状物質
- ・ 通年、1地点（対象事業実施区域）
地上気象
（風向・風速、気温・湿度、日射量、放射収支量）
- ・ 4季、5日間、1地点（対象事業実施区域）
上層気象（風向・風速、気温の鉛直分布）

3.3.1 大気質（沿道大気質調査）

方法書 p3-22～3-24、3-26



調査地点

主要な搬入経路を基に設定

※ bは収集ごみ（パッカー車）の搬入ルートにはなっていないが、一般の方の直接搬入があり、集落が近いため設定

調査内容

- ・ 2季、7日間、3地点
二酸化窒素、浮遊粒子状物質、ベンゼン

3.3.1 大気質（予測）

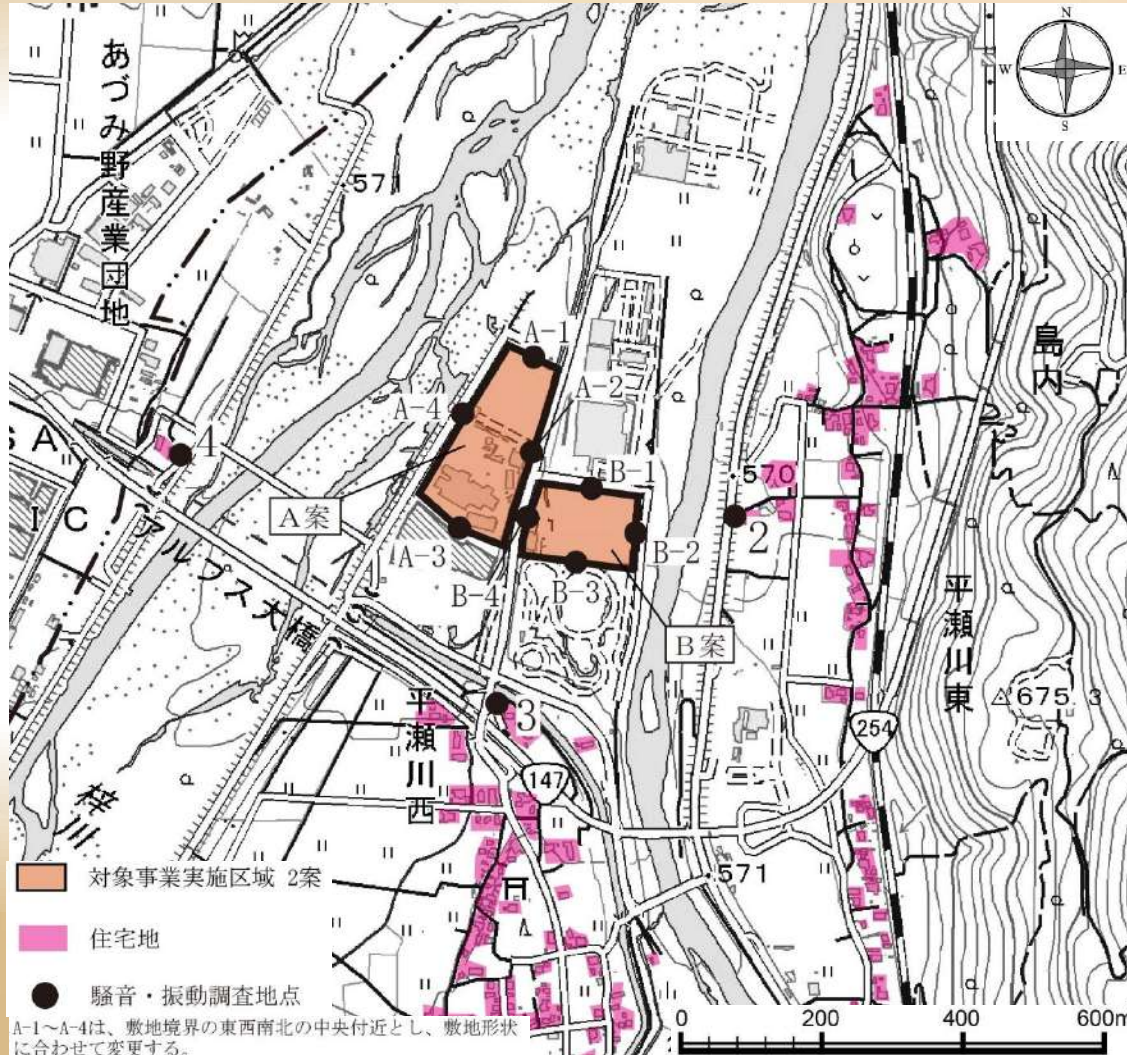
工事中

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
運搬	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	大気拡散式（プルーム式・パフ式）	道路周辺大気の 現地調査地点
	粉じん （降下ばいじん）	事例の解析による定量的予測手法	対象事業実施区域周辺
土地造成・掘削 工作物の撤去・廃棄 舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	大気拡散式（プルーム式・パフ式）	最大着地濃度地点 及び周辺住居地域
	粉じん （降下ばいじん）	事例の解析による定量的予測手法	

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
自動車交通の発生	二酸化窒素、浮遊粒子状物質	大気拡散式（プルーム式・パフ式）	沿道大気質の 現地調査地点
焼却処理施設の稼働	二酸化硫黄、二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 ダイオキシン類、水銀	【長期平均濃度】 大気拡散式（プルーム式・パフ式）	対象事業実施区域 及びその周辺
	二酸化硫黄、二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、塩化水素	【短期高濃度】 高濃度発生のある気象条件 大気拡散式（プルーム式等）	
	微小粒子状物質	既存調査事例を引用した定性的な手法	

3.3.2 騒音、3.3.3 振動（環境調査）



調査地点

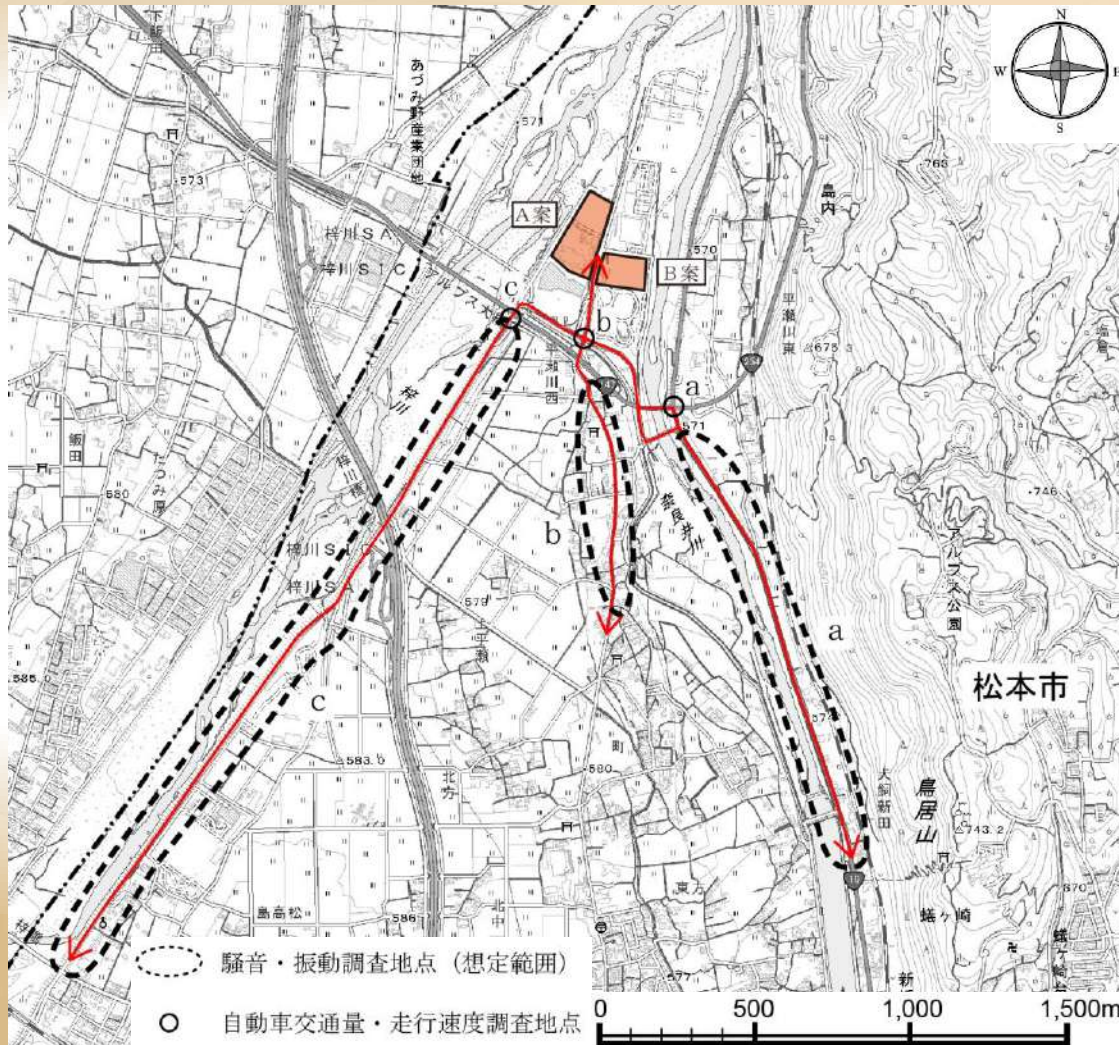
対象事業実施区域の敷地境界及び周辺の集落の分布を基に設定

調査内容

- ・ 2季（夏、冬）、各平日・休日、境界4地点、周辺3地点
環境騒音、振動
事業場騒音、振動

3.3.2 騒音、3.3.3 振動（沿道調査）

方法書 p3-29~3-30、3-32
p3-34



調査地点

主要な搬入経路を基に設定

bは収集ごみ（パッカー車）の搬入ルートにはなっていないが、一般の方の直接搬入があり、集落が近いいため設定

調査内容

- ・ 2季（夏、冬）、各平日・休日、16時間、沿道3地点
道路交通騒音、振動
道路構造
自動車交通量
走行速度

3.3.2 騒音、3.3.3 振動（予測）

工事中

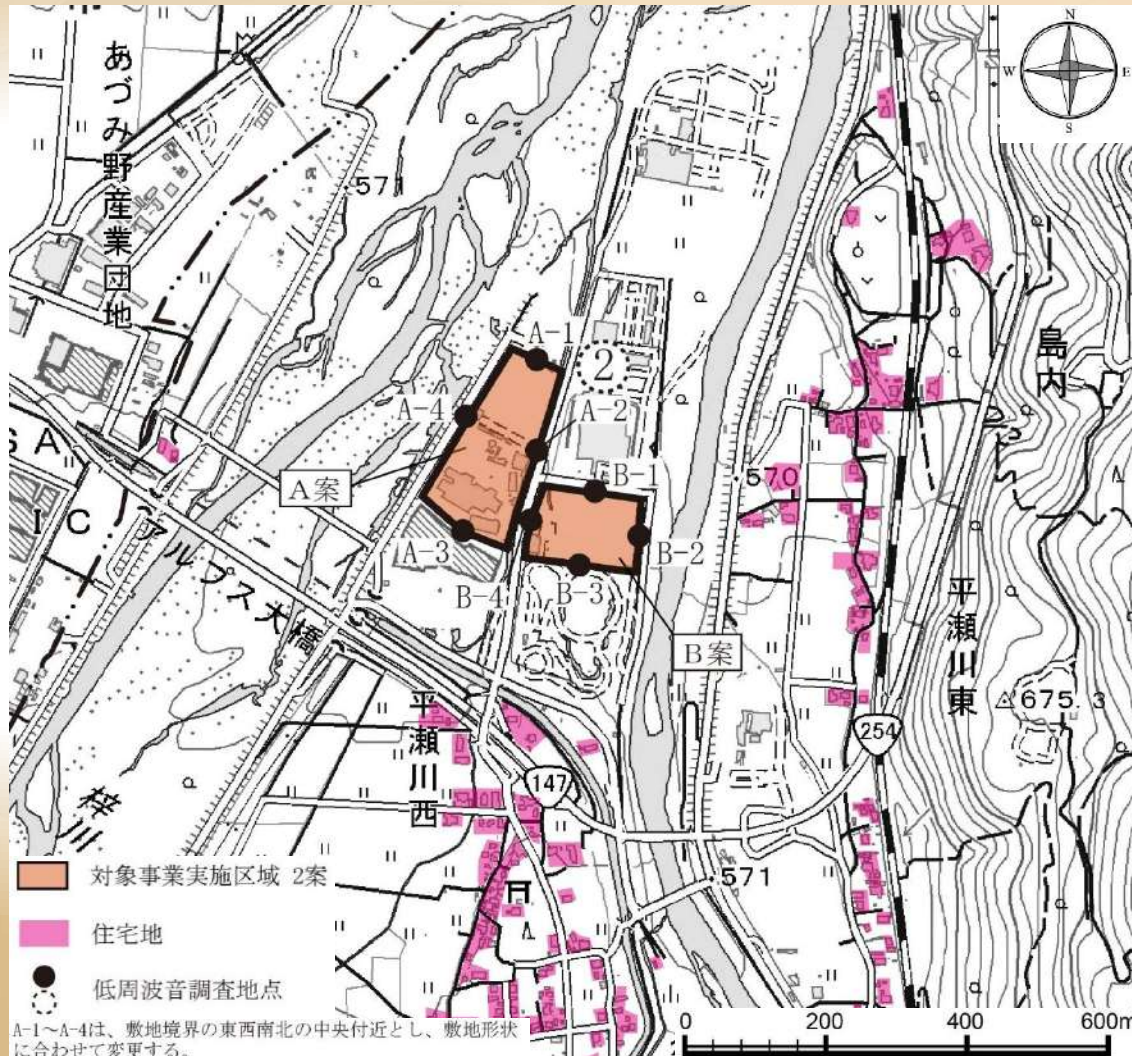
影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
運搬	道路交通騒音	音の伝搬理論に基づく予測式 (ASJ RTN-Model2018)	道路交通騒音、振動の 現地調査地点
	道路交通振動	建設省土木研究所提案式により予測	
	建設作業騒音	音の伝搬理論に基づく予測式 (ASJ CN-Model2007)	敷地境界及び周辺住居地域
	建設作業振動	振動の距離減衰式により予測	
土地造成・掘削 工作物の撤去・廃棄 舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	道路交通騒音	廃棄物搬入車両の通行台数に着目、 定性的予測	道路交通騒音、振動の 現地調査地点
	道路交通振動		
	事業場騒音	音の伝搬理論に基づく予測式	敷地境界及び周辺住居地域
	事業場振動	振動の距離減衰式により予測	

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
自動車交通の発生	道路交通騒音	廃棄物搬入車両の通行台数に着目、 定性的予測	道路交通騒音の 現地調査地点
	道路交通振動		
焼却処理施設の稼働	事業場騒音	音の伝搬理論に基づく予測式	敷地境界及び周辺住居地域
	事業場振動	振動の距離減衰式により予測	

3.3.4 低周波音（調査）

方法書 p3-36～3-37



調査地点

対象事業実施区域の敷地境界及び現施設の状況を把握できる場所に設定

調査内容

- ・ 2季（夏、冬）、各平日・休日、境界4地点、現施設1地点
低周波音

3.3.4 低周波音（予測）

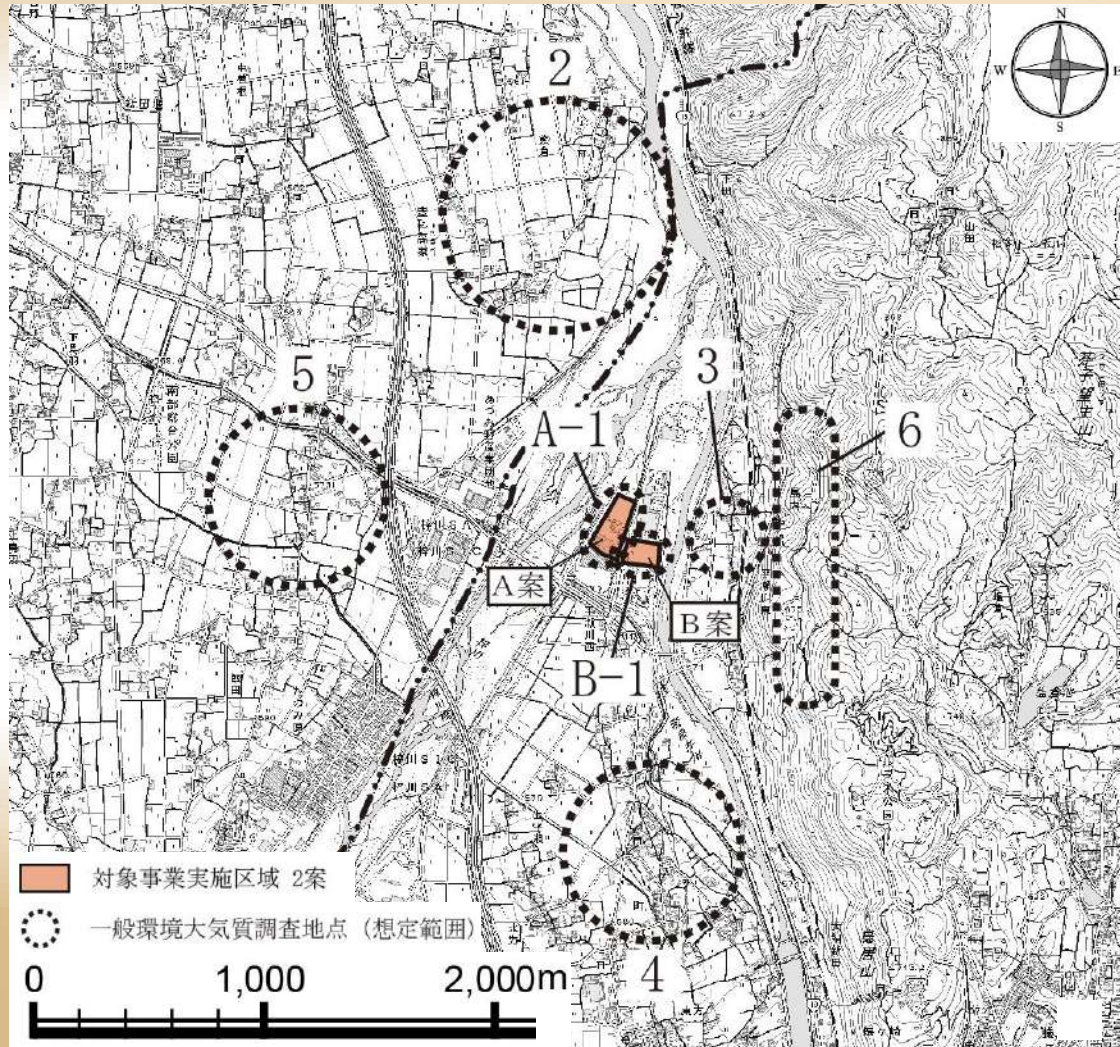
方法書 p3-38

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
焼却処理施設の稼働	低周波音	類似施設における測定結果等を基に定性的に予測	敷地境界及び周辺住居地域

3.3.5 悪臭（調査）

方法書 p3-39~3-40



調査地点

配慮書で実施した煙突排ガスの拡散予測結果及び集落の分布状況を基に設定

大気質（一般環境）と同じ地点

調査内容

- ・ 2季、敷地境界 2 地点
特定悪臭物質（2 2 物質）
- ・ 2季、敷地境界 2 地点、周辺 5 地点
臭気指数

3.3.5 悪臭（予測）

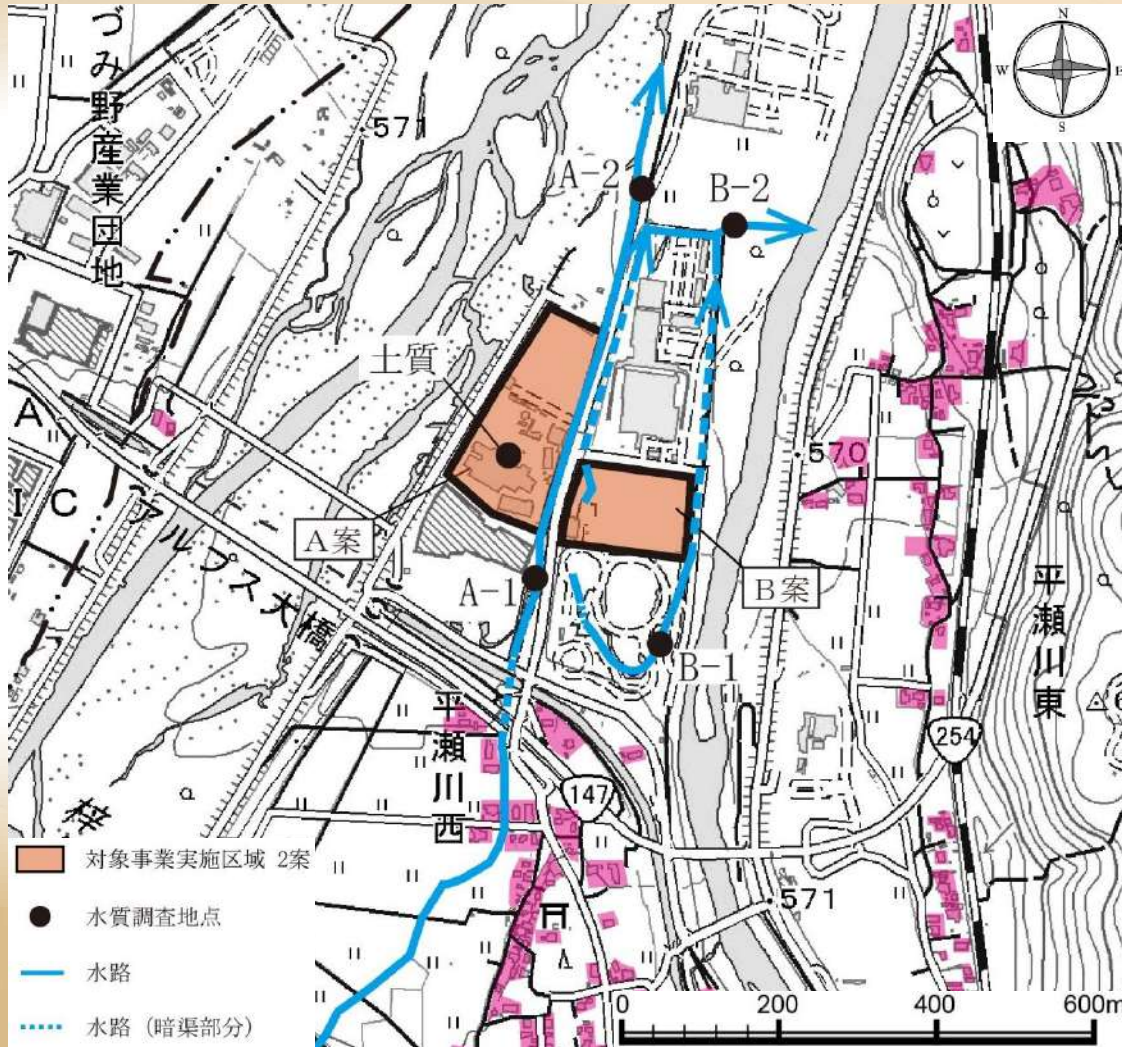
方法書 p3-41

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
自動車交通の発生	廃棄物搬入車両の悪臭	現況調査結果、類似事例等を基に定性的に予測	敷地境界及び周辺住居地域
焼却処理施設の稼働	煙突排出ガスによる悪臭	大気の拡散式に基づき予測	敷地境界及び周辺住居地域
	施設からの悪臭の漏洩	類似施設の測定事例等により定性的に予測	

3.3.6 水質（調査）

方法書 p3-42～3-44



調査地点

水路の状況及び工事中の雨水・湧水が流入する可能性がある河川（水路）を設定

調査内容

- 4季、2地点（上流、下流）
環境基準項目（生活環境項目）
流量
- 2季、2地点（上流、下流）
環境基準項目（健康項目）
ダイオキシン類
- 1回、2地点（上流、下流）
降雨時濁水項目（pH、SS、濁度）
- 1回、1地点
土質（粒度組成、沈降試験）

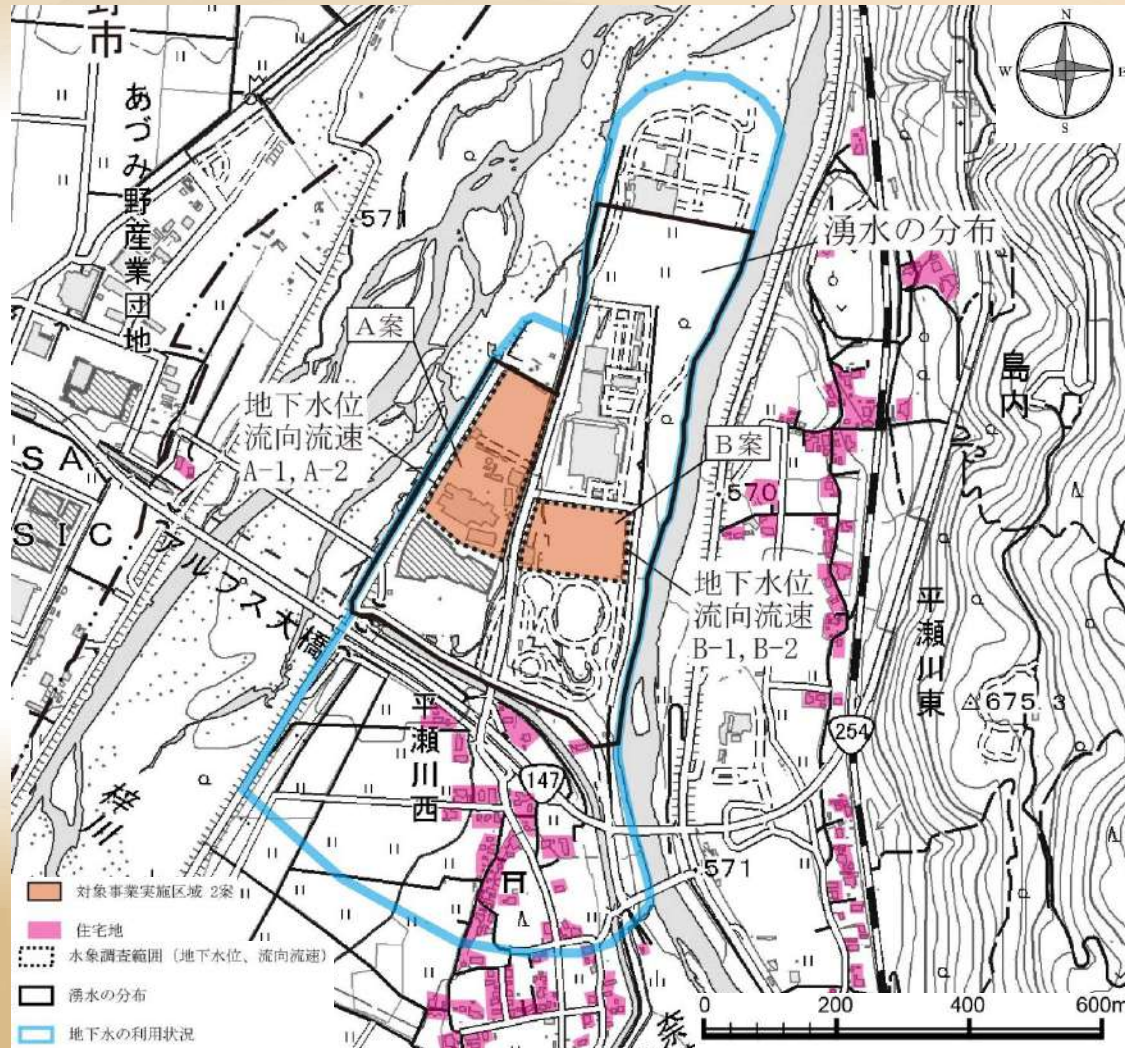
3.3.6 水質（予測）

方法書 p3-44

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
土地造成	土砂による水の濁り	対象事業の工事内容、水質及び土質の現地調査結果を基に類似事例の引用もしくは解析により予測	対象事業実施区域の下流域
掘削	工事中の排水による水の濁り	対象事業の工事内容、水質及び土質の現地調査結果を基に類似事例の引用もしくは解析により予測	
舗装工事・コンクリート工事	工事に伴うアルカリ排水の影響	対象事業の工事内容、類似事例の引用もしくは解析により予測	

3.3.7 水象、3.3.9 地盤沈下、3.3.10 地形地質（調査）



調査地点

周辺の河川の状況、対象事業実施区域の位置を基に設定

調査内容

- 1回
湧水の分布
地下水の利用状況
地下水の流向流速
- 1年間
地下水位

3.3.7 水象、3.3.9 地盤沈下、3.3.10 地形地質（予測）

工事中

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
掘削	地下掘削工事による地下水位及び湧水の変化	事業計画、調査結果から定性的に予測	地下水位に影響を受けるおそれがある地域
土地造成 掘削	地形、地質、土地の安定性	工事内容、地質状況等から定性的に予測	地形、地質、土地の安定性に影響するおそれがある地域
工作物の撤去・廃棄	地下構造物の撤去工事による地下水位及び湧水の変化	事業計画、調査結果から定性的に予測	地下水位に影響を受けるおそれがある地域

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
建築物・工作物の存在	地下構造物の存在による地下水の流れ、地下水位及び湧水の変化	事業計画、調査結果から定性的に予測	地下水位に影響を受けるおそれがある地域
焼却処理施設の稼働	地下水の揚水による地下水位及び湧水の変化	取水量、地下水の現況から定性的に予測	

3.3.8 土壌汚染

方法書 p3-48~3-51

調査地点

一般環境の大気質の調査地点と同様に設定

調査内容

- ・ 1回、対象事業実施区域1地点、周辺5地点
土壌の汚染に係る環境基準項目、ダイオキシン類

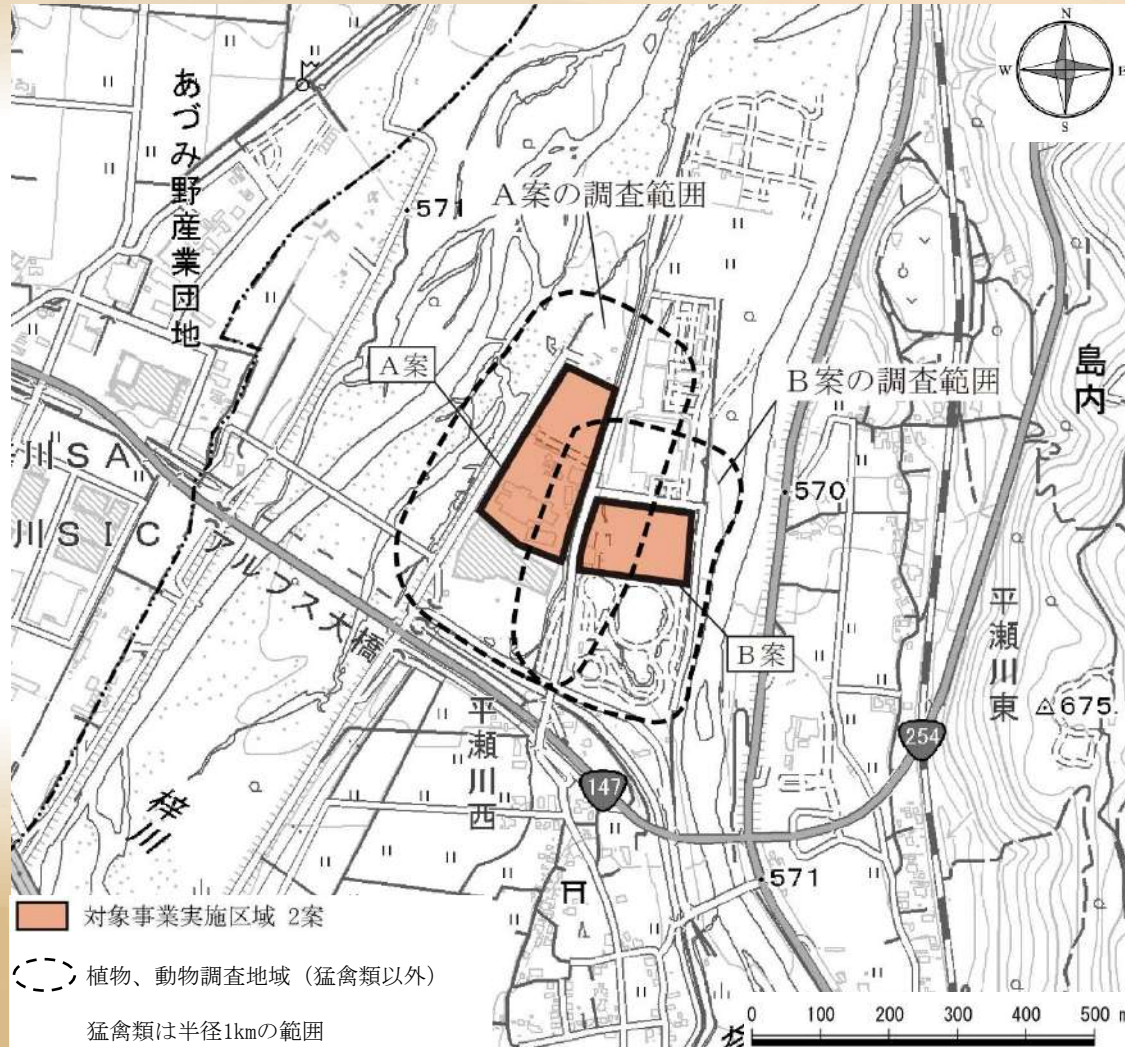
工事中

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
土地造成 掘削 工作物の撤去・廃棄	残土等の土壌汚染	対象事業の工事内容、土壌の現地調査結果及び残土等による土壌汚染に係る環境保全措置等を基に予測	対象事業実施区域

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
焼却処理施設の稼働	土壌中ダイオキシン類濃度	大気質におけるダイオキシン類の予測結果を基に土壌ダイオキシン類濃度を予測	最大着地濃度地点及び土壌の現地調査地点
廃棄物の排出・処理	環境基準項目及び土壌中ダイオキシン類濃度	対象事業の廃棄物の搬出・処理計画及び環境保全措置等を基に定性的に予測	対象事業実施区域

3.3.11 植物、 3.3.12 動物、 3.3.13 生態系（調査）



調査地点

周辺の自然状況及び対象事業実施区域の位置を基に設定

調査内容

- 4回
植物相
哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類、陸産貝類、水生動物、動物の注目種
- 2回
植生
- 5回
鳥類
- 10回
猛禽類（2繁殖期）

3.3.11 植物、 3.3.12 動物、 3.3.13 生態系（予測）

工事中

	影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
植物	樹木の伐採 土地造成	植物相 植生 注目すべき個体、集団、種及び群落	事業計画と調査結果を重ね合わせ、変化の程度や消滅の有無を類似事例等により予測	調査地域と同じ
	掘削 工作物の撤去・廃棄 舗装工事・コンクリート工事	植物相 植生 注目すべき個体、集団、種及び群落 (水生植物を含む)	事業計画、環境保全措置及び「水質」「水象」の結果に基づき類似事例等により予測	
動物 生態系	樹木の伐採 土地造成 建築物の工事	動物相 注目すべき種及び個体群 生態系	事業計画と調査結果を重ね合わせ、変化の程度や消滅の有無を類似事例等により予測	調査地域と同じ
	掘削 工作物の撤去・廃棄 舗装工事・コンクリート工事	動物相 注目すべき種及び個体群 (水生動物を含む) 生態系	事業計画、環境保全措置及び「騒音」「振動」「水質」「水象」「植物」の結果に基づき類似事例等により予測	

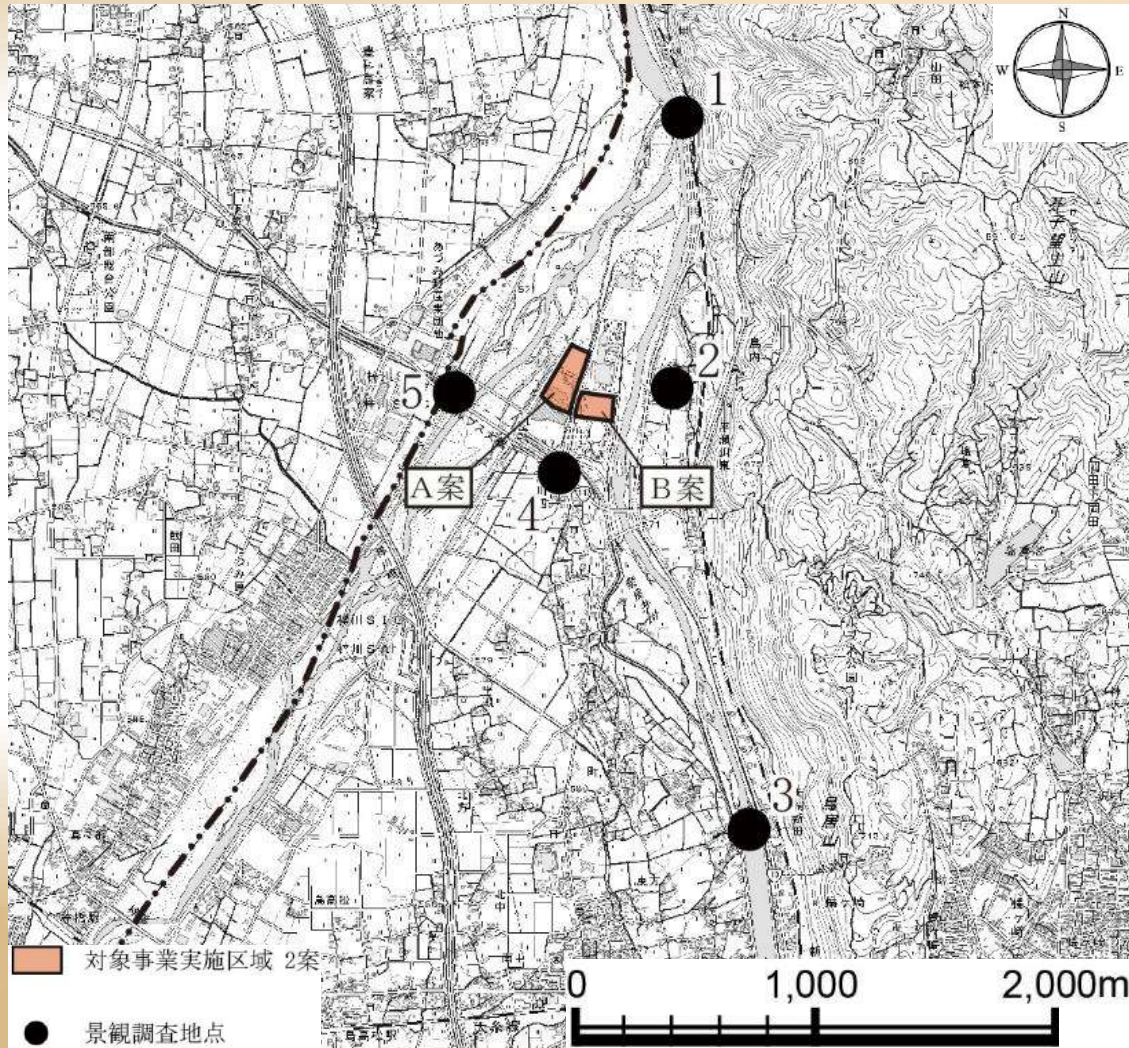
3.3.11 植物、 3.3.12 動物、 3.3.13 生態系（予測）

供用後

	影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
植物	建築物・工作物等の存在 緑化 焼却処理施設の稼働	植物相 植生 注目すべき個体、集団、種及び群落 (水生植物を含む)	事業計画と調査結果を重ね合わせ、変化の程度や消滅の有無を類似事例等により予測	調査地域と同じ
動物 生態系	建築物・工作物等の存在 緑化 焼却処理施設の稼働	動物相 注目すべき種及び個体群 生態系	事業計画と調査結果を重ね合わせ、変化の程度や消滅の有無を類似事例等により予測	調査地域と同じ

3.3.14 景観（調査）

方法書 p3-66～3-67



調査地点

代表的な眺望地点について、人が集まる場所や車窓からの視認等を考慮して設定

調査内容

- ・ 1回、5地点
景観資源および構成要素
- ・ 4季
主要な景観（写真撮影）

3.3.14 景観（予測）

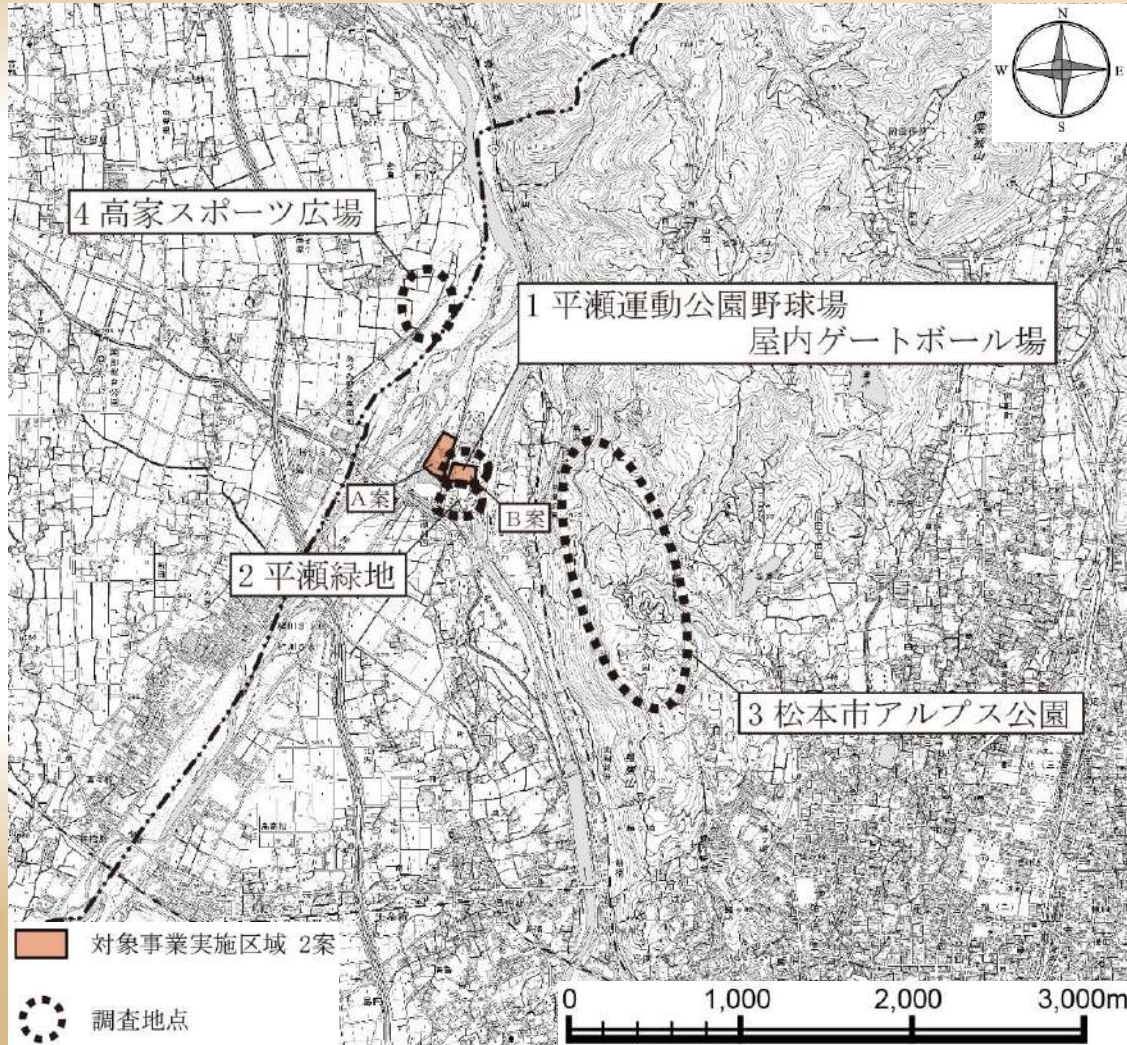
方法書 p3-68

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
樹木伐採後の状況 地形改変 建築物・工作物等の存在 緑化	景観資源及び構成要素 主要な景観	変化の程度を対象事業計画との重ね合わせ、 フォトモンタージュ法等により予測	調査地点と同じ

3.3.15 ふれあい活動の場（調査）

方法書 p3-69～3-70



調査地点

周辺のふれあい活動の場の分布状況を考慮して設定

調査内容

- ・ 4季（春、夏、秋、冬）、4地点
利用状況（現地踏査、聞き取り調査）
- ・ 2季（夏、冬）、各平日・休日、16時間、沿道3地点
自動車交通量

3.3.15 ふれあい活動の場（予測）

方法書 p3-71

工事中

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
運搬 樹木の伐採 土地造成 掘削 工作物の撤去・廃棄 舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	利用環境の変化	事業計画及び環境保全措置を踏まえ、「騒音」「振動」「悪臭」の結果に基づき予測	調査地域と同じ

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
自動車交通の発生 焼却処理施設の稼働	利用環境の変化	事業計画、環境保全措置及び地域振興策を踏まえ、「騒音」「振動」「悪臭」の結果に基づき予測	調査地域と同じ

3.3.16 廃棄物等（予測）

方法書 p3-72

現地調査は実施しない。（資料調査のみ）

工事中

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
樹木の伐採 土地造成 掘削 工作物の撤去・廃棄 舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事 廃材・残土等の発生・処理	廃棄物の発生 残土等の副産物の発生	工事の施工計画、環境保全措置及び類似事例の参照等により予測	対象事業実施区域

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
廃棄物の排出・処理	廃棄物	事業計画、環境保全対策及び類似事例の参照等により予測	対象事業実施区域

3.3.17 温室効果ガス等（予測）

方法書 p3-73

現地調査は実施しない。（資料調査のみ）

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
自動車交通の発生	温室効果ガス発生量	現状と将来のごみ収集車の走行距離の変化から、温室効果ガス等の排出量の増加の程度を予測	廃棄物運搬ルート
焼却処理施設の稼働	温室効果ガス発生量	事業計画、環境保全対策及び類似事例等を参照し、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等により温室効果ガスの排出量を予測し、現施設の排出量と比較	対象事業実施区域

3.3.18 日照障害

方法書 p3-74

調査地点

対象事業実施区域周辺を設定

調査内容

- ・ 1回（冬至日）、対象事業実施区域周辺
日陰状況（現地踏査）

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
建築物・工作物等の存在	日照障害	日照障害の影響範囲等を数値シミュレーションにより予測	対象事業実施区域の周辺

3.3.19 電波障害

方法書 p3-75

調査地点

対象事業実施区域周辺を設定

調査内容

- ・ 1回、対象事業実施区域周辺
テレビ電波の受信状況

供用時

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
建築物・工作物等の存在	電波障害	「建築物障害予測の手引き 地上デジタル放送」の電波障害予測計算式による方法	対象事業実施区域の周辺

4. 評価の方法

ア 環境に対する影響緩和の観点

予測結果を踏まえて、環境保全措置等の内容を明らかにし、実行可能な範囲で、影響緩和ができる限り図られているかの見解を示す。

【全項目】

イ 環境保全のための目標等との整合の観点

環境基準、規制基準などを基に環境保全のための目標を設定し、達成できるか否か、または現状の環境を悪化させないかにより評価する。

【環境基準】：大気質、騒音、水質、土壌汚染

【規制基準】：騒音、振動、悪臭

【その他】：振動、低周波音、水象、地盤沈下、地形地質、景観、廃棄物等、温室効果ガス等、日照阻害

5. 手続き状況

方法書の縦覧期間

令和5年1月6日（金）～2月6日（月）

意見募集期間

令和5年1月6日（金）～2月20日（月）

説明会の開催予定

令和5年1月27日（金）	対象：平瀬川西地区（地元地区）
1月28日（土）	対象：松本市民（地元地区）
	対象：安曇野市民（隣接地区）
	対象：安曇野市熊倉地区（隣接地区）

ご清聴ありがとうございました。